

# 一音一音に“今”の想いを込めて！！



みのり太鼓メンバー  
きくち たけし  
菊地武司さん

「みの～れは自分の故郷  
のような場所ですね」  
と穏やかに話す菊地さん。

みの～れと共に生活するスタイル  
Minole Life  
のすすめ No.91

今年も素敵なお人に出会い、たくさんの方の笑顔をお届けすることが出来るように頑張りますのでよろしくお願ひいたします。まるで口ウ細工の様な口ウバイはコロナとした黄色い花で、優しいかおりを漂わせています。今回は3月22日の公演に向けて練習に打ち込むつくば市にお住まいで、みのり太鼓団員の菊地武司さん取材します。

## 夢中になれるもの、 打ち込めるものが そこにはある！！

菊地さんは保育士で、小美玉市内の保育園で働いていた時期がありました。学童保育へ太鼓を教えに来ていたみのり太鼓会長の篠原さんとの出会いが和太鼓を始めるきっかけになったそうです。

「今から6年前です。みのり太鼓の社会人グループ『楽ぬ(らいぬ)』を立ち上げるといふ話があり、篠原さんに誘われました。1年間は『楽ぬ』で活動していました。『もう少し本格的に打ってみないか』と篠原さんに声をかけられ、みのり太鼓の中心グループ(本隊)に入って、現在に至ります。入団した翌年の3月にみのり初回のステージに立たせてもらったのですがまだ太鼓の経験が浅かったせいもあり、とにかく必死でした。この公演のことは今までで一番印象に残っていますが、たくさんのお客さんの前で頭が真っ白になってしまいましたね」と菊地さん。

「太鼓は全くたいたことがなく、同じ時期に入った中学生の方が覚えるのが速かった。子どもたちは何でもスポンジのように吸収するじゃないですか(笑)。手は動かないし・なかなか上達しないんですけど、一生懸命に打ち込める物があるのはいいですよね。何かに夢中になれること、出来ないことに夢中になれること、貴重な経験が出来ますね。全国的にみると老若男女幅広い方がやっているの、自分にあつた太鼓が打てたらいいなと思います」と太鼓への想いを語ってくれました。太鼓を始めてからの話を伺うと「まず体型が変わりましたね。今まで着ていたシャツの腕がきつくなったり、手にタコが出来たりしました。職場など自分の周りの環境が変わったことがきっかけで、週末が休みになったので、みのり太鼓本体での毎週土曜日の練習に通ってきます。太鼓を打つことに集中できる環境になり、ますます楽しくなりましたね。」と楽しそうに話してくれました。

フットサルやサッカーが好き

(藤田佐知子)

という菊地さんは、「スポーツが好きだったので、逆に音楽的な事がやってみたかったんです。保育士だからピアノは多少弾けるんですが、リズム感がなくて：(笑)太鼓を始めて少しはリズム感がついてきました。指揮者かいて音や動きを合わせるわけではなく、横に並んでいる仲間と呼吸を合わせるんです。つまりはチームワークが大事なんです」と力強く話してくれました。

みのりについて伺うと、「保育園の発表会でも使わせてもらっていたので、落ち着きますね。自分が過ごした場所、そこでいろいろな事があって、自分の故郷という感じですよ」と菊地さん。

3月22日の公演は「いつまで太鼓が出来るか判らない・・・そういう中で自分の打ち込めることが目の前にある環境の中で、今自分のできる一回一回の演奏を最高のものにした。たくさんの方に聴いてもらえたらと思います」と穏やかに話す菊地さんが印象的でした。